

編集後記

小児循環器学会雑誌の編集委員になってもうすぐ2年です。参加当初は投稿の減少をくいどめ、薄くなってしまった雑誌を厚くすべく白石編集長のもと議論してまいりました。電子化となった現在、投稿数は次第に増加し我々もほっとしています。

いきなり英語での論文作成は敷居が高いと感じている若者の方々、日々の業務をこなして満足するだけでなく、執筆する時間を少しでも設けましょう。ひとつの論文を完成させるのは、とても面倒くさいことです。各雑誌には投稿規定があり、たとえば引用論文の記載方法もそれぞれ異なっています。ルールがきちんと守れること、査読者の意見に真摯に答えることなど、これは臨床の場面でも必要とされることです。

論文は自分が行った仕事の証として永遠に残ります。採択されて掲載されたとき嬉しいものですが、のちの喜びは自分の論文が引用されることです。英文であれば海外の方々が自分の論文を参考にしてくれます。その感動をぜひ味わって頂きたいです。

まずは小児循環器学会で発表したことを書いてかたちにしてください。鉄は熱いうちに打たないと忘れてしまいます。

(豊原啓子)